

令和6年度 市長と語ろう「わかものふれあいトーク」 開催結果概要

- 日 時 令和7年1月24日（金）午後1時30分～
- 会 場 釧路市役所 防災庁舎5階 災害対策本部室
- 出席者 11名

1 趣旨

【司会】

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

このわかものふれあいトークは市長と各分野で活躍されている若い方々が直接懇談して、いただいた意見を今後の市政運営に役立てるものとなっています。皆さんが普段思っている率直なご意見をお気軽にこの場でいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

2 将来のビジョンについて

【司会】

まずは皆さんのもっといろいろなことを知りたいので、皆さんのキャリアデザインや自分のライフイベントなど、自分の今後についてどのように考えているかお聞きます。

Aさんから反時計回りでお話しいただいてもよろしいでしょうか。

【参加者A】

私は釧路生まれで東京の専門学校に進学し、実習でお世話になった孝仁会に魅力を感じたことと、地元釧路にも魅力を感じたことから、今釧路に住んで働いています。

将来のビジョンとしては、まずは孝仁会でいろいろな患者様や職場に貢献したいなという思いがあります。孝仁会は独特な病院で、働いているときにいろいろな職場に異動ができる職場で、私も孝仁会記念病院の前は知床の羅臼町にある診療所で働くなど、様々な経験をさせていただいています。今は病院で働いていますけれど、地域の方に講演をするなど病院から発信できることがまだまだあるかなと思いますので、「病気を予防するためにどういう風に過ごしてもらうか」といった情報を発信する活動に参加していきたいと考えています。

また、釧路市の皆が楽しく過ごせるのが一番良いなと思っていて、まちに出て高齢者や足が不自由な方などと交流を持っていく中で、作業療法士として関われるところがまだまだあると思っています。

あとは、個人的に釧路や道東の自然環境が好きなので、もっとふれあっていろいろな景色を見ていきたいなという風に思っています。

【参加者B】

私は標茶町生まれで、高校生までは標茶町で過ごし、大学は東京に出ました。その

後いろいろありまして、今は東北北海道病院に勤務して13年になります。

患者さんとふれあう機会、あとはそこから少し地域に発信していくという目的でも、最近は災害支援というところに重きを置いて、いろいろと研修会に参加させていただいています。

私は妻と子ども2人の4人家族で、上の子が小学生、下の子が幼稚園に通っています。これからの世代を育てる立場なので、これからの釧路を楽しく住みやすいまちにしていかなければならないと思っています。

将来のビジョンとしては、先ほど言いましたように、災害支援に注力していきたいと考えています。そのためには、まず自分の職場でできることから始めようと同僚に研修会の案内をしたり、自発的な啓発活動として少しずつ同じような職種の方にも広めたりしていきたいです。

いざ災害が起きてバタバタした中でも皆で協力できるような地域づくりのために、普段から顔が見える関係性づくりが大事なのかなと思っています。先ほどのAさんとちょっと被るところはありますが、地域に出て行って転倒予防教室や介護予防事業をして、少しずつ顔を広げていきたいと思いますので、自分自身も少しずつ発信していきたいなと思っています。

【参加者C】

私も釧路で生まれ育って、大学だけ釧路から出て、卒業後に釧路に戻ってきました。仕事面での将来のビジョンとしては、先ほどBさんから災害のお話がありましたが、釧路薬剤師会でも災害対策委員会を立ち上げたばかりです。地震などはこないのが一番ではありますが、災害が起きたときのための対策をしっかりとしていけたらなと思っています。

プライベートな将来のビジョンとしては、祖母が1年前の今日、ちょうど施設に入所したのですが、釧路市内でなかなか見つからず大変な思いをしましたので、釧路にいる両親が高齢になってきている中で、これから介護施設や高齢者向けの施設がもう少し増えたら嬉しいなと思っています。

【参加者D】

私は高校卒業までの18年間を釧路で過ごし、その後東京の大学に進学しました。東京で就職することも考えましたが、「釧路市を盛り上げたい」という思いが強く、三ッ輪運輸に就職を決めました。入社後3年間は釧路本社で勤務し、4年目から東京支社に配属。東京で8年間勤務しました。今から3年前に釧路に戻り、今年で入社14年目を迎えます。

東京支社で勤めた8年間の中で釧路市を外から見たときに、「釧路は魅力ある場所」と再確認することができました。また、その魅力や優位性をお客様にどう伝えるか、その難しさを痛感させられた8年でもありました。

今回、わかものふれあいトークに参加するにあたり、港湾という視点からどの様に釧路の魅力を発信できるかを再度考えたときに、「客船」が思い当たりました。

釧路港には年間15~20隻の客船が寄港しています。昨年は14隻で、これは函館の58隻、小樽の32隻に次いで北海道内3番目に多い寄港数です。新型コロナウイルス感染症の影響で寄港実績ゼロの年が続いていましたが、2022年頃から徐々に回復してきています。

大型の客船では乗客乗員合わせ約 4,000 人、小型の客船でも約 400 人が乗船しており、バスツアーに参加したり、個人で買い物や散策をしたりと、大きな経済効果をもたらしています。釧路市として旅客船をいかに誘致できるかが、魅力発信の上で一つの鍵になると考えています。

但し、そこには課題もあります。大型船が釧路港に入港する際、岸壁の長さや水深の影響で東港の耐震旅客船ターミナルに停泊ができないときがあります。その場合、主に貨物船が使用する西港の岸壁に停泊することになりますが、西港となると、和商市場やMOO、北大通等の市街地までは距離があり、下船する乗客の数も減少します。港湾から釧路を盛り上げるために、耐震旅客船ターミナルを整備し、いかに大型船を誘致するかが、釧路港の将来ビジョンであり、釧路市の成長に繋がると考えています。

【参加者 E】

私は子育てを機に釧路に戻ってきました。

将来のビジョンというか、今どのような想いで仕事をしているかというと、「子どもが住みやすい釧路にしたい」という想いで仕事をしています。今の子どもたちにとって、釧路がグローバルな世界やクリエイティブな世界の選択肢が増えたらなと思っています。そのためにいろいろと頑張っています。

【参加者 F】

私は釧路市民文化振興財団に勤めて 1 年目でまだ勉強中なのですが、釧路市生涯学習センターまなぼっと幣舞で施設の受付をしたり、子どもやシニア世代を対象とした講座のお手伝いをしたりしています。

11 月にまなぼっとで「まなトピア」というフェスティバルがあったのですが、昨年よりも参加者や出店者が減っていると聞いています。昨年と同じ顔触れが揃っているのに、何か新しいことに挑戦したいなと思っています。

【参加者 G】

まず、僕は皆さんとちょっと前提が違って、中学生くらいからもうとにかく釧路から出たくて仕方なくて、高校生になるときに釧路から出ようと思っていました。親に反対されたことと、スポーツをやっているスポーツ推薦をいただいたことから地元の高校に進んだのですが、それでも大学はもう釧路から出て行くと決めていました。高校 2 年生のときに石川県の大学への推薦の話があったので、高校卒業とともに石川県に行き、大学卒業後はそのまま石川県で就職しました。しばらく働いたのですが、親の都合で釧路に帰ることになって、社会人として釧路で働く中で「釧路は良い所だな」と感じました。

学生の時は釧路から出たくて仕方なかったけれど、大人になってから良い所だと感じたのがどうしてかなと考えたら、釧路では車が無いとなかなかいろいろな所に行けません。バスやタクシーなどの公共交通機関はあるのですが、僕の住んでいる所ですとバスが 1 時間に 1 本とかそういうレベルで、若い学生は時間に追われているというか、遊びたいと思ったら今すぐ遊びたいという気持ちが強いと思うので、そういうところに不便さを感じていたのだと思うなと思っています。

あと、やはり学生が集まれる場所が無いなと思います。学生はよくファミリーレストランなどに皆で集まって夜遅くまで話し込んだりすることがありますが、釧路にはファミリーレストランなどの 24 時間営業しているお店があまりありませんので、そ

ういうところにも学生時代の僕は窮屈さを感じていたのだらうと思います。

社会人になって自家用車を持つようになったらいろいろな所に車で行けるようになり、釧路の魅力を肌で感じられるようになりました。少し郊外に出れば観光地があったり、市内に分散しているおいしい飲食店を調べてそこまで行けたり、そういったことをしていると「やはり釧路は良い所だな」と感じます。

僕は釧路にはおいしいものがたくさんあると思っています。例えば「おすすめのラーメン屋さんがありますか？」「おすすめのソフトクリーム屋さんはどこですか？」と聞いたら一人ひとり好きなお店の話が出てきますよね。僕のビジョンとしては、これは物産協会としての今後の課題でもあります、そういう美味しいものをもっと発信できたらなと思っています。

姉妹都市で開催される釧路フェアなどで、道外・地元以外の人には発信する機会がありますが、地元の人におすすめすることがあまりできていないなという実感があるので、そこをどうしていけば良いかは物産協会としても検討中なのですが、その中で学生さんに釧路の魅力を知ってもらえる機会ができれば良いなと思っています。

【参加者H】

私は高校まで釧路に住んでいて、大学進学を機に札幌に出ました。建築の大学に通って卒業後はそのまま札幌で就職し、半年くらいで辞めてからは全然違う仕事をしていました。29歳の時に「やはり建築に関わりたいな」と思って、資格を取って釧路に戻ってきて、今は建築士として設計事務所に勤めて10年目になります。

釧路では家を建てる時に設計事務所に依頼するという選択肢がまだあまり浸透しておらず、設計事務所が何をしていたらどういふ仕事をお願いできるのかもうまく伝わっていない現状があるので、設計事務所に依頼をして家を建てるという選択肢をもっと浸透させられるような活動ができれば良いなと思っています。

例えば、建築の相談会や、ワークショップを開いて皆で何かつくる活動をしたいと思っていますが、なかなか今はできていません。

転勤で釧路に来た方と仲良くなって話を聞いてみると、「釧路に転勤が決まった時は乗り気じゃなかったけれど、いざ来てみるとお店もあって、過ごしやすく気に入ってる」といふ人が結構います。転勤でまた他のまちに行ってしまう時に「また釧路に戻ってきたい」と言ってくれる人もいて、個人的にはそういう人がまた戻ってきたいと思えるようなまちづくりをしていければ良いなという風に思っています。

釧路で定住する家や仕事、趣味などが充実していると、また戻ってきたいと思えるんじゃないかと思うのですが、子育て世帯として釧路で生活していて、ここ数年で室内遊技場ができるなど子育て環境が充実してきてはいるものの、もっと増やしていただきたいと思っています。

例えば、私の自宅近くにある春採湖は、街なかに大きな湖があって自然があるというすごい環境で、野鳥や自然が好きな方が散歩したり写真を撮ったりしていますが、全世代が楽しめるような公園かと言われるとそうではありません。春採湖に子どもが遊ぶ遊具があれば全世代の人がそこに集まって遊べるのに、もったいないなという気持ちがあります。もっと全世代が集えるような場所にして、そこで子どもたちが遊んでいるという良い風景が見えたりすると、それを見た人の「良い街だな」といふ印象が強くなってくるのではないかと最近は思っています。

【参加者 I】

私は現在、福祉の分野で仕事をしていますが、例えば看護師になりたくて専門の学校で学んだり、元々スポーツが好きでスポーツの仕事に就いたわけではないので、最初は何となく福祉といえば、介護・高齢者・障がいというぼんやりとしたイメージがあるくらいでした。しかし、仕事を通して地域と関わっていく中で、それだけではないというのがわかってきました。例えば、医療分野との連携はもちろんのこと、介護の現場で言えば ICT の活用、スポーツで言えばパラスポーツなど世代や属性に関わらず楽しめるスポーツ、街なかに様々な世代の方が性別や属性に関わらず集まれるような拠点を作ろうという場合には、建築やデザイン分野からのアプローチがあった方が良いものが出来上がるのではないかと考えます。様々な分野の方々と緩やかに繋がって協働できるような、そのような福祉のイメージを皆さんと共有できたら良いなということを考えながら仕事をしています。

【参加者 J】

私は釧路育ちで、大学は名寄市に行きました。それから 5 年くらい道内で働いて、今釧路に戻って 5 年になります。正直釧路に戻ってこようとは思っていなかったというか、釧路に魅力を感じていないというのが私の感想です。社会人になってから車を使って市内を回ったり、高校生の頃とは違う場所に行ったりするようになって、例えば社会人になってからできたお友達が釧路に来て「何か食べに行こう」「観光しよう」というときに、食べる物はすぐに思いつくのですが、連れていく場所の選択肢があまりなくて困ってしまうことが多いからです。

個人的な将来のビジョンとしては、先ほど自己紹介の中で公認スポーツ栄養士を目指していると話したとおり、今、スポーツ分野の専門的な栄養の知識をつけているところです。スポーツをしている子どもたちに、どう栄養を摂ったら良いのかなというのを広めていけたら良いなと思っています。

私が働いている施設はほぼ中標津や別海などの釧路管外、道外などから来ている子どもたちが釧路方面で試合があるときに泊まる施設として使われることが多くて、市内でスポーツをしている子どもたちにアプローチをする機会があまりなかったので、盛り上げられないなと感じていたところに、今、指定管理者として市の体育館を運営し始めて、地元の子どもたちがどのようにスポーツを頑張っているのかを間近で見られる機会が多くなりました。そういう場面で、監督やコーチの方々にアプローチしながらセミナーや講演等をして、釧路でスポーツをしている子どもたちが栄養の知識をつけてスポーツに生かしてくれることを目指して頑張っているところです。

昨年、別海高校の野球部が甲子園まで進んだ時に、栄養の面で少し関わらせてもらいましたが、やはり少子化の問題もあるのか、今は私立の学校と公立の学校でスポーツの差が出なくなってきたように思います。以前は私立の学校はお金をかけてスポーツをしに進学してきたというイメージで、練習時間も長くて結果的に強豪校が生まれるという状況でしたが、今はチームさえ作れない状況の私立の学校もあり、公立の学校が試合で勝ってしまうことがあります。その良し悪しは一概には言えませんが、そういう状況で子どもの数もスポーツ人口も減ってきているので、スポーツの魅力を広めていって盛り上げていけないといけないという風に考えています。

【参加者 K】

釧路生まれ釧路育ちの 24 歳です。少し特殊なのですが、高校を卒業してから孝仁

会の看護学校に入学しました。途中で気持ちが折れてしまった時に自分は他に何がしたいのだろうと考えた時に、スポーツが好きだからスポーツに関わる仕事がしたいなと思い至って、昨年度まで釧路市教育委員会のスポーツ課で会計年度任用職員として働いていました。その契約期間が終わった後、スポーツ課所管施設の指定管理者である東北北海道スポーツコミッションに勤めることになりました。

東北北海道スポーツコミッションで働いている中で、理事の人たちの考えやイベント力がすごいと感じているので、自分も今国際交流センター前で開催しているウインターパークのような地元が盛り上がるようなイベントを考えられたらなと思っています。

今はウインドヒルスーパーアリーナで働いていて、小さいのですがイベントを企画したりしています。2月8日に節分イベントとこどもアリーナの開催を控えており、その中で自分が鬼の格好をして子どもたちの前に現れるという企画を考えています。もし子ども連れの方がいれば、ぜひ来てもらえたらなと思っています。

【司会】

今、皆さんにお話をいただいた中で、例えばDさんからは耐震旅客船ターミナルの関係、Gさんからは市内の方向けの食べ物など釧路の特長の周知、もちろん市外の方も含めてですが、そういうお話がありました。これを受けて、鶴間市長はどのようにお考えでしょうか。

【釧路市長 鶴間秀典】

皆さんしっかりされていますね。私が皆さんくらいの年齢の時にはあまり何も考えていなかったというか、将来何しようというのをしっかりと持っていませんでした。結構、人生迷子みたいな感じでした。でも皆さんのお話を聞いていると、釧路のことも言えるし、自分のこともしっかり見ているし、素晴らしいなと思いました。ぜひ、まだまだお話を聞きたいです。本当なら一人ひとりとお話をしたいです。

3 若者が定住しやすいまちづくりについて

【司会】

次に、もう少し具体的な今後のまちづくりについてのご意見をお伺いします。

今お話しいただいた中で、BさんやEさんから子育て環境について、そしてHさんから春採湖の公園の整備についてお話をいただきました。お三方から、実際に子育てをしたり、子育てする方を間近で見たりする中で、「何か釧路にこういったものが足りていない」「こういうものがあってもっと良い」と思うもの、もちろん他の都市と比較してもらって大丈夫ですが、何かご意見はありますでしょうか？

【参加者H】

他の地域の例を挙げますと、札幌から45分くらいのところに南幌町というまちがあり、そこでは子育て環境の整備にすごく力を入れています。令和4年から人口が増えていて、その人口増加率が北海道で一番らしいです。

ただ、人口としては7,500人前後のまちですので、釧路で同じことができるかという話がありますが、この南幌町では町が宅地を広くとった分譲地を用意して、そこに子育て世帯に来てもらうという取り組みをしています。ただ住宅が建ち並ぶような分譲

地ではなく、庭造りやちょっとした畑仕事ができるような大きな区画で、自然が周りにある中で子育てをできるというものです。建物自体も地元の工務店と設計事務所が作っていて、同じような建物が無くて、「隣の家からプライバシーを守れるけれど開放的な間取り」など、配置もそれぞれ考えられています。そのような施策もあって子育て世帯が増え、屋内遊戯施設ができるなど目に見える効果が表れています。釧路でもそういう分譲地を作ったら子育て世帯が増えるのかなと思っています。

それこそ、鶴間市長のご出身の阿寒地域は市街地に自然があって高速道路も繋がって通勤もしやすくすごく良い環境だと思っています。市がそういう分譲地を整備していけば、例えば、釧路の市街地に住んでいるけれど自然の多いところが好きだから、仕事は釧路のまま移住しようという人もいるので、そういう方が阿寒町に住んで釧路市街地に通勤するという選択肢を用意できればもう少し良いのかなと思います。

【釧路市長 鶴間秀典】

良いですね。

【釧路市副市長 菅野隆博】

北スマイルヴィレッジという事業ですね。町から200万円の補助金も出しています。

【Hさん】

そうですね、補助金もかなり出ています。

【釧路市長 鶴間秀典】

ぜひやりましょう。

【釧路市副市長 菅野隆博】

あの事業は、分譲地を買ってもらうことで自治体の財政的負担が少なくなる仕組みです。

【司会】

EさんやBさんからご意見はありますか？何か今、実際に困っていることはありますか？

【参加者E】

困っていることは特にありません。

今お話されたHさんと根本的な考え方は似ていますが多分少しジャンルが違って、私の考えとしては今あるものをどう伝えるかだと思っています。何かお金をかけてその施策のために皆で動いてというように、今やっていることにプラスで仕事が増えることも場合によっては望ましいとは思いますが、今あることの中に素敵なことがすでにたくさんあると私は考えていますので、それを伝えた上でいろいろな人から発信をして、寄付をしたい方が増えてきてそれで財源を賄えるのであれば、今あるものを発信して、その次に市のお金を使うことを考えてもいいのかなという考えがあります。

【釧路市長 鶴間秀典】

何かをやるに当たって、そのような投げかけを市民にできれば良いですね。

【参加者E】

市民もそうなのですが、私も東京から釧路に戻ってきた者なので、先ほど何人かからお話があったように、釧路をすごく嫌だと思っていたのに大人になって帰ってきたら意外と良い所あるなとか、逆に根本的に何が嫌だったのか 20代 30代になったからこそ見えるものがあるまちだと感じています。

話を戻すわけではないですが、釧路に戻ってきてもらえるように今の伝え方を変えていった方が良いと思っています。

【司会】

ありがとうございます。Bさんは何かありますか？

【参加者B】

要望になってしまいますが、子どもを3人育てる中で幼稚園の先生たちが結構忙しくて大変そうだなというところが気になっていましたので、ぜひ保育園・幼稚園教諭の人たちに手厚くサポートをしてほしいと思っています。

あと、地域の子どもと高齢者の接点が昔ほど無いのかなという印象があります。見ても、地域のおじいさんが「おはよう」と声をかけてくれる姿が僕たちの時代よりかなり少なく、週末に子どもと公園に行っても遊んでいる子が少ないと感じています。

原因としては僕が住んでいる地域が鳥取なので滑り台が古くて危なかったり遊具の魅力が無かったりいろいろな考えられます。たしかに僕も釧路市の緑ヶ岡公園や釧路町のおや恵公園、中標津のゆめの森公園に連れて行って遊んだりしています。

最近だと白糠町が道立公園の誘致も始めていると思うのですが、そういった動きも含めて釧路市内にも体験型の施設・遊具があると子どもたちのストレス発散に良いのかなと思います。

【釧路市長 鶴間秀典】

公園の整備についてのお話がありましたので教えてほしいのですが、あまり予算が無い中でこれから公園を整備するに当たって、機能を分けて整備していくという考えを持っています。例えば子ども、高齢者など、具体的なイメージで機能を分けて整備していこうとしています。

子どもの遊び場としては釧路市こども遊学館やちびっこマンデーもありますが、そういう所では足りないのでしょうか？何が必要なのか、具体的に教えてもらえますか？

【参加者H】

娘が5歳なので、今市長がおっしゃっていた遊学館やちびっこマンデーもよく行っています。それと、ウインドヒルスーパーアリーナにもよく行きます。遊学館は冬でも室内の砂場で遊べたり、夏だったら水が流れていて水遊びができたり、環境がすごく良いと思います。あのような景観が別の場所にも、例えば、駅前とかに子どもが遊べるような公園があると駅に来た人がその光景を見て、釧路に対して良い印象を抱く

ことに繋がると思います。

【釧路市長 鶴間秀典】

機能ではなく、場所ということですか？

【参加者D】

私も子育て世帯で、小学生と乳児の子どもがいます。今、Hさんがおっしゃった遊学館やちびっこマンデー、ウインドヒルスーパーアリーナをよく利用します。

例えば遊学館で言うと、未就学児の小さな子供が遊んでいる砂場で小学生が遊ぶときに、「危ないから気を付けて遊んで」と我慢をさせる場面があります。同じように、小学生が遊んでいれば中学生に我慢をさせなければならない場面もあると思います。釧路には未就学児を対象とした遊び場はありますが、小・中学生を対象とした遊び場は非常に少ないなという印象です。実際に私自身も小・中学生時代にそう感じながら過ごしていました。

高校生になればカラオケやゲームセンターという選択肢もありますが、小・中学生は容易には行けず、特に冬の遊び場が無いと感じます。市の体育館でバトミントン等をしたくても、スポーツ大会が開催されていたら使えないという場面も多いです。

そこで、小・中学生に特化した施設があれば、釧路で過ごす楽しさや、印象も変わってくるのではと考えます。

【釧路市長 鶴間秀典】

この意見は皆さんも同感ですか？

【参加者E】

そうですね、小中学生の子どもたちが遊ぶ場所というのは思い当たりませんね。

今、いろいろな目線で小学生を対象にしたイベントが開催されていますが、やはり小学校3年生から中学校3年生くらいまでの子どもたちに向けたイベントというものは極端に少ないと感じます。イベントも施設も場所も少ないです。

【釧路市長 鶴間秀典】

たしかにこれまで親御さんから「子どもの遊び場がない」というお話はよく言われてきて、それに対して私は「あるじゃん」と思っていたましたが、そういうことなのですね。

ちなみに、もう一步踏み込んで、具体的にどのようなイメージでしょうか？

【参加者B】

例えばですが、キッザニア東京のような職業体験型の施設があれば、かなりその職種をイメージしやすくなるのではないのでしょうか？

【参加者H】

あとは農園での収穫体験が好きな子も多いので、サッポロさとらんどのような体験農園で収穫したものを食べるとか、そこに行けば1日中遊べるというような場所が近くにあると行くかもしれないです。

【釧路市長 鶴間秀典】

わかりました、参考になりました。

4 仕事で思う釧路市に足りないもの

【司会】

今、子どもの遊び場について結構具体的なお話をいただきました。子ども向けという意味でイベントも関連してくると思いますが、例えば東北北海道スポーツコミッションさんでは様々なイベントを開催されていますね。そういった視点から、釧路に足りないものを感じることはありますか？

【参加者K】

東北北海道スポーツコミッションでは子ども向けのイベントとしてこどもアリーナを開催していますが、それも未就学児が対象ですので、そこに小学生のお子さんが来ると「小さな子がいるから走り回らないでね」「ボールを蹴らないでね」と運営者側からも注意をしてしまうこともあるので、先ほどお話されていた状況があると思います。

【参加者E】

イベントの当日だけ設置している遊具だと、どうしても限られた日しか使えないので、単純な滑り台やブランコではなく、頭を使う遊具やテレビ番組のS A S U K Eのような遊具が常に置いてあれば子どもたちが自由に遊びに来られて良いのかなという印象です。

【司会】

ありがとうございます。

物産協会では大人を対象としたイベントが多いですか？

【参加者G】

そうですね、うちは毎年12月に物産まつりというイベントを開催しているのですが、地場産品PRの一環として、会員さんの会社の商品を年末価格という体で安く販売する等、大人を想定した内容です。

われわれのように物産を取り扱う業界の者だと、「釧路の姉妹都市はどこですか？」という問いにもすぐ「湯沢市・鳥取市」と出てくるのですが、一般の方に聞いたら基本的には「どこだっけ」となってしまいます。来場されたお客さんにもよく「どうして鳥取市のブースがあるのですか？」と聞かれて、「釧路市の姉妹都市だからですよ」とご説明することもあります。地元の方が地元のことをよく知らないという状況があると思っています。

市民向けの釧路市のPRも兼ねて、物産まつりの他にどんぱくでも姉妹都市交流ブースを設けて、姉妹都市の特産品を販売することで、販売員として来てくれた姉妹都市の方と釧路のお客さんの交流の場を提供しています。

先ほど小中学生の遊び場がないよねというお話が出ていたように、われわれも内部で「学生さんが冬の釧路で楽しめるイベントが無いよね」と話はしていました。物産まつりの中で学生さんを楽しませるようなことができないかなと考えた結果、一昨年からは釧路商業高校と標茶高校の学生さんが、自分たちが仕入れたり加工したりした商

品を物産まつりの会場で販売するという販売を通した地元交流の試みを始めました。これがなかなか高評価で、来てくれたお客さんが高校生の皆さんの元気のよさを、高校生の方は販売の楽しさを感じてくれているようです。参加してくれた高校生に将来について聞いてみたら、「僕は昨年、販売を体験したのですが、それが楽しかったので地元スーパーのあいちょうさんに就職しようと思っています」と言っていました。そういう話もあるので、われわれは大人向けのイベントが多い中でも、学生さん向けに何かできないかなと検討しています。

【司会】

ありがとうございます。ちなみに、まなぼつと幣舞でも市民向けのイベントがあると思いますが、職場の方や利用者の方からイベントについて何かご意見を聞いたことはありますか？

【参加者F】

これまで、お子さんを対象とした農園体験を開催したことはあったのですが、今年はヒグマ出没の影響で中止になっているので別の場所を探していました。子どもたちのことを考えると農園体験ができた方が良いなと思っていましたが、来年度は別のものをやることになってしまいました。

あと、子育て中の親御さん、未就学児のお母さん向けに火曜日や水曜日になってしまいますが、仕事の無い日に講座に参加していただいてお子さんを預けてリラックスできる講座も開催しています。ただ、どんな講座を開催するにも情報がないと、「行きたかったけれど知らなかった」という人がいると思うので、情報発信をできる場所やSNSなどを増やしたいと考えています。

先ほどもお話した11月に開催する「まなトピア」というお祭りは釧路市民なら誰でも来られるので、料理体験などのイベント情報を発信する場所や手段がもっと増えたら良いなと思っています。

【司会】

ありがとうございます。

【参加者D】

すみません、子育ての話から少し戻り、「定住しやすいまちづくり」という点について、1つお伝えしたいと思ったのでお話をさせてください。

将来定住する場所を考えた時に、地震や津波のリスクが無いかを調べると思います。釧路ではこの先30年以内にマグニチュード9クラスの地震が起きると言われており、こういう内容が報道されると釧路沖地震を経験したことの無い、特に若者世代の不安を払拭するのが難しいと感じます。

市内大楽毛では既に津波避難施設の建設が着工しておりますが、「これで釧路市は100%大丈夫」とは言えないと思います。例えば市から要請をし、市を挙げた大規模な防災訓練を年に1回、地区ごとに実施。実施状況を釧路市内外に発信できれば、「釧路市は防災対策をしっかりとっている」と、不安払拭にも繋がり、定住者を増やすための手段になるのではと考えます。

【釧路市長 鶴間秀典】

釧路市では年に1回、総合防災訓練を実施しています。地区ごとにも実施してくれているのですが、正直、町内会の役員さんくらいしか参加されないという状況です。そこには周知の問題もあるかと思いますので、考えていきたいと思います。

あとは、今後津波避難タワーや複合施設の建設を各地で進めていこうと考えています。国の予測によれば、冬の夕方に津波が来ると約84,000人の人的被害が出るそうです。一番多く避難できた場合でも37,000人です。この37,000人でも東日本大震災よりも大きな人的被害ですので、市としては、今以上にもう一歩踏み込んだ対策を考えていきたいと思っています。

【司会】

今ちょうど防災のお話ができました。防災に関連するものを考えていくと、医療や福祉に発展すると思います。今日は医療関係・福祉関係の皆さんもいらっしゃいます。医療・福祉の分野で働いている皆さんの視点で、釧路に足りないものや、こうしてもらった方が働きやすいと思うものはありますか？

【参加者C】

以前、釧路薬剤師会の災害対策委員会では、他病院の職員による被災時の応援について話が出ていました。

もしも津波が来て、高台にある市立釧路総合病院は稼働しているけれど日本赤十字病院や労災病院が浸水した場合に、被災した病院に勤務している職員の自宅が緑ヶ岡にあって無事という状況ですと、自分の職場では働けないけれど人手としては動ける、状態になります。そういった場合に市立病院の方に応援に行ったりはできないのだろうかという話でした。その中で、実際問題として市立病院ですと釧路市、他の病院ですと国や民間など、管轄の違いがあって難しいのではないかという意見も出ていましたが、やはり災害の時にはそのようなことは言っていられないと思っています。たしかに統率がとれていないとただぐちゃぐちゃになるだけですので、そこで連携をとれるようにどうにかできないものか、皆さんに案を伺いたいと思っています。

【釧路市長 鶴間秀典】

専門的な話ですので、私からお話します。日赤病院も労災病院も3階以上は患者さんが避難できるようになっていますので、その患者さんたちのために看護師さんや医師が必要ですから、それは病院ごとに対応することになります。ただ、例えば、Cさんからあったように東側の地域に住んでいる看護師さんが「市立病院になら応援に行けるのにな」という状況もあると思います。

そういう場合は災害時の貴重な人手ですので、来てもらえれば応援できるのではないかなと思うのですが、それを正式にマニュアルに書き込むということについては今後相談していきたいと思っています。

【釧路市副市長 菅野隆博】

お時間があるときに市の地域防災計画を見ていただきたいのですが、災害時に立ち上げる災害対策本部ではほとんどの病院や警察、自衛隊などの情報が共有されます。どこにどのような人員がいるのかという連携をアナログチックにやっているの、災害時にデジタルがどこまで使えるのかという問題はありながらも、今後は今この病院

で看護師が足りない、ドクターが足りない、ボランティアが足りないというそれぞれの状況をデータの連携で共有する仕組みができれば良いと思います。

多分今日来てくださっている皆さんは年齢的に東日本大震災の津波を経験していると思いますが、津波というのは実際に来るとやはり恐怖心に駆られて、どうしても災害対応の初動が難しくなります。僕も市職員として、もうMOOまで水がきているという状況で現地の様子を見に行かなければなりません。そういった現場のリアルな状況を踏まえながらもうまくデジタルを取り入れるような形にして、皆さんの熱い想いを繋げていくということが一番大事なことだと思っています。今のお話で皆さんの中に津波に対する想いが実体験したこと以上にあるというのを改めて感じましたので、「せっかく人手があるのに」と不信感を抱かせたり空回りしたりしないように、全部できるかどうかはわかりませんが、考えていかなければなりません。

ご存じのとおり、釧路市は東日本大震災で被災した東北地方から何人も避難や二次避難をしてきておられるという状況ですので、防災の意識が皆さんに伝わっていることが僕はすごく良いことだと思っています。まずは、先ほど市長からお伝えしたようなことを含めていろいろと考えていかなければならないと思っています。

確率で言うと明日地震がくるかもしれないですし、次にくる大きな地震は6,000年に1度の規模だという話もあります。備えあれば憂いなしと言いますので、明日くるかもしれないという意識で対策を進めていくのが大事だと思います。

【司会】

AさんやIさんの医療・福祉の視点から、釧路に足りないものはありますか？

【参加者A】

災害が起きたら避難所が開設されますが、そういう所には多分健康な方もいれば不自由な方も来るわけです。私は特に認知症の方が来た時に、認知症について詳しくない方々からするとすごく怖いイメージを抱くのではないかと考えています。平時から市民の皆さんに認知症についての知識や対処方法を頭に入れておいてもらえるとその状況も変わってくるのかなという風に思いますし、皆さん安心して避難できるのではないかなと考えています。

ちょっと難しいのかもしれないのですが、教育現場でももっと認知症についての勉強をする場があれば良いなという風に思っています。たしか2月15日ぐらいに認知症についての講演会が開催されますので、そういうところにもっともっと市民の方が参加することで、認知症に対するイメージを変えたり認知症の方を看ている家族の方がもっと過ごしやすいまちになったりしたら良いなと思います。

具体的にどう動くのかはまだ難しいとは思いますが、そういう介入をすることで釧路市全体を見たときに周りからも「釧路って良いまちだな」と思ってもらえるし、若い世代の方も「親の介護をしやすそうなまちだ」と思ってくれるのではないかなと思います。

【司会】

Iさんから何かありますか？

【参加者I】

災害について言えば、われわれ社会福祉協議会は、発災後「災害ボランティアセン

ター」というものを立ち上げます。市内外・道内外から駆けつけてくれるボランティアさんと連携するための拠点です。

社会福祉協議会はすべての市町村にあって、その他に北海道が所管する北海道社会福祉協議会（道社協）があります。有事の際にはその道社協が中心になって他市町村の社会福祉協議会が災害ボランティアセンターに応援に来てくれるような仕組みづくりを進めているところです。

普段は市内の防災士の団体と連携して、学校や町内会・サークルなどで「避難する時にはこういうものがあると良いです」「こういう心がけをしておいてください」などの啓発活動をしています。

やはり事前に準備はしていても、いざ被災したらわれわれ自身も動けない可能性があるので、日頃から市が周辺の自治体や企業と情報共有し、いざという時にどうするのかということを含めて連携していかなければならないと思います。

また、Aさんから「認知症の方が避難所で…」というお話もありましたが、いわゆる要支援者と言いますか、障がいをお持ちの方やお子さん、外国人の方など有事に困り感が強くなる方々はいらっしゃると思います。例えば、日頃から地区の避難訓練に町内会の役員さんだけではなくて地区の事業者や介護施設、障がい者支援施設、保育園などと一緒になって参加すれば、避難の時に何が困るかなというのがわかると思いますので、やはり顔の見える関係づくりと言いますか、地域にこういう人たちがいて有事と一緒に避難しなければいけないということを日頃から共有していく必要があると考えています。

【司会】

ありがとうございます。そろそろ終わりの時間も近づいてきました。

本日、いろいろとご意見をいただきましたので、鶴間市長から最後にご意見やまとめをお願いします。

【釧路市長 鶴間秀典】

はい、今日は皆さん本当にありがとうございました。

皆さんがこれほどお話してくれると思っておらず、ちょっと時間が足りなかったのも、そこは失敗したと思いました。次回開催する際は時間の設定を1時間30分ではなく、2時間にしたいと思っています。

また、もっともっと囚われない形のフリートークもしたかったですね。

本当に、皆さんからいただいたアイディアをメモさせていただきましたので、しっかりこの先に繋げていきたいと思っていますし、これからもこういう機会を通して皆さんと意見交換をしていけたら良いと思っていますので、今度またあったらぜひ喜んで参加してください。

この釧路市は課題がいっぱいで、正直なところこの先5年間くらいが勝負だと思っています。私もしっかり取り組んでいきますし、その中で皆さんの力も借りていきたいと思っていますので、これからもよろしくお願いします。